

## 〈研究ノート〉

## 『Google Scholar』の利点

松田直人

## 1. はじめに

これまで論文検索の際には、多大な労力や時間を費やすことが多かった。しかし2004年に検索サイト『Google』(www.google.co.jp/)が論文の情報検索サイト『Google Scholar』(http://scholar.google.co.jp/)を開始した。日本では2007年から本格化し、そのおかげで論文検索が飛躍的に進歩を遂げた。

本稿は『Google Scholar』を広く知ってもらおうと、本学外国語学部教授である井上史雄氏のご提案により、書いたものである。

## 2. 『Google Scholar』のメリット

この『Google Scholar』での論文検索方法を知るまでは、地道に論文を探し、その論文参考文献などから探すことが多かった。しかし、論文の内容まではわからないため、論文を取り寄せてからそれほど関連がない論文であることもあった。『Google Scholar』を使用すると、PDFファイルで中身を見ることもでき、さらにはその多くの論文がプリントアウトすることができる。中身を見てから関係ないと思った論文はプリントアウトする手間も省けるため、自分が検索する際には時間的負担と経済的負担が大きく軽減できたことが何よりも大きな利点であったと言える。

## 3. 日本語論文と英語論文の差

実際に日本語と英語での検索の差を見てみようと思う。本稿では「形容詞」「Adjective」「コーパス」「Corpus」を実際に検索した結果を示す。

表1 検索ヒット数の比較

	形容詞	Adjective	コーパス	Corpus
検索ヒット数	6,150件	167,000件	3,690件	1,500,000件

表1を見ればその検索結果は一目瞭然だろう。日本語で書かれている論文は、英語で書かれている論文に比べて極端に少ない。認知度も低いことを示す結果となっている。

#### 4. ま と め

『Google Scholar』ができたことにより、研究者たちにとっては非常に有効なものになったと言えるだろう。『Google Scholar』を広く知ってもらい有効活用していき、論文を執筆する際も有効に活用し、様々な研究分野の発展に繋がればと思う。